

## 浜松市のエネルギー政策と再生可能エネルギー利用システムの見学

先進サステナブル都市WG 秋澤 淳  
東京農工大学

2016年3月15日(火)に浜松市役所のエネルギー政策およびエネルギー関連の取り組みについて見学しました(参加者19名)。エネルギー政策課の江馬課長補佐のご挨拶の後、原田スマート・エネルギーグループ長より様々な事業について詳細な説明をいただきました。浜松市では平成25年にエネルギービジョンを策定し、中大型水力発電も含めれば再生可能エネルギーで電力需要をすべて賄えるだけのポテンシャルがあると推計されています。市有地を活用したメガソーラーが合計4.5MWある他、公共施設の屋根貸しによる太陽光発電事業も進めています。行政として規制緩和や手続きの迅速化、地元金融機関との連携などに取り組み、太陽光発電の導入容量全国1位を達成しています。バイオマス産業都市構想、次世代ダイバーシティエネルギーパーク、スマートシティ推進協議会などを通じて、プロジェクトの創生を図っている他、市と地元企業とで新電力会社「浜松新電力」を設立し、太陽光発電や廃棄物発電などを供給する計画を持っています。

その後、浜松・浜名湖太陽光発電所(3.5MW)を訪問しました。土地は元々廃棄物処分場であり、埋め立てた土地を貸し出しています。次に市内の北部にある天竜区役所を訪問しました。区役所の庁舎は屋根面で回収した太陽熱を暖房に利用するとともに、市内で作る木質ペレットを燃料とする吸収冷凍機を冷房に使用しています。再生可能の熱エネルギー利用は日本のエネルギー政策に謳われており、それを率先して実現しているといえます。

エネルギー政策を自治体の立場から多角的に推進していること、FITや電力自由化などの時代の流れにマッチした事業に積極的に取り組まれていることなど、先端的な取り組みを多数見ることができ、大変貴重な機会となりました。



浜松市からの説明



浜松・浜名湖太陽光発電所